

### 3. フランス・オランダにおける公衆衛生教育

産業医科大学・医学部・公衆衛生学 教授

松田 晋哉

#### 1. フランスにおける公衆衛生学教育

##### (ア) 卒前教育 (図表 1、2)

卒前教育では医学部の第 2、第 3 学年時に公衆衛生学と産業医学 (法医学の一部門)、あるいは臨床系における関連教育 (例: 小児科における小児保健) として行われている。公衆衛生学の標準的な教科書である *Santé Publique* (Pomey MP, Poullier JP, Lejeune B: ellipses: 2000) から、その主な項目を列挙すると次のようになっている。保健医療組織 (医療保険制度、社会福祉制度)、疫学、公衆衛生活動 (保健医療計画、予防、健康教育、保健医療分野における協働、評価方法)、環境科学、薬物中毒、事故 (交通事故、屋内における事故、労働災害)、予防医学 (感染症、がん、循環器疾患、糖尿病、精神保健)、社会医療活動 (母子保健、高齢者、障害者、貧困と公衆衛生)、栄養と公衆衛生 (世界の食糧問題、食品衛生)、発展途上国における公衆衛生。

##### (イ) 卒後教育

卒後教育としては医学部の公衆衛生専門医課程 (図表 3、4)、国立公衆衛生学校 ENSP、ナンシー大学公衆衛生学校の 3 つがある。フランスの場合、医師の資格は専門医と一般医とに区別される。卒業時に医学生はアンテルナと呼ばれる試験を受け、各専門医の試験に合格したもののみが専門医となれる。公衆衛生医もそのような専門医であり、大学卒業後、医学部の公衆衛生学教室で 4 年間の研修を受ける。

##### (ウ) 国立公衆衛生大学校 (Ecole Nationale de la Santé Publique: ENSP)

ENSP はフランス保健省の管轄下の大学校であり、いわゆる幹部養成校 (Grands Ecoles) の一つで、国民教育省管轄下のある高等教育機関ではない (図表 5)。筆者が入学した公衆衛生監督医課程はいわゆる医系技官養成コースであり、この課程を修了したもののみが保健省で医系技官として勤務することができる。研修生は保健省の職員であり、公衆衛生監督医候補生として政府から給与をもらう。また、入学に際して公衆衛生専門医資格をもつ者、海外協力活動の経験がある者は優先的に選抜される。

図表 6 は ENSP の公衆衛生監督医課程の教育内容を示したものである。研修生はオリエンテーションの後、フランス国内のいずれかの社会保健局に配属され、そこに勤務する公衆衛生監督医の指導を受ける。この配属先に主たる業務についての体験と各地域の公衆衛生学的課題にあった研究テーマを指導医と相談の上決定する。研修生は当該テーマについて卒業論文を作成することが義務づけられる。筆者は ENSP のあるイユエビレンヌ県の社会保健局に配属され、学校保健に関する課題を与えられた。初期現場実習の後、大学校に戻ると、保健省の医師として必要な法律や会計に関する講義が行われる。特に医師たる行政官として、行政法及び行政裁判の判例分析といった講義には多くの時間が割かれていた。

教育に関して特徴的な点は監査実習や医療計画の策定実習などが重視されている点である。監査実習については、社会問題監督官研修生とチームを組み、実際の保健医療福祉施設の監査を任される。例えば筆者らのチームはアンジェ郊外の授産施設の監査を行った。監査結果については、当該県の担当者及び施設の関係者を交えて討論が行われ、その結果が当局及び ENSP に報告される。医療計画策定実習では、公衆衛生監督医候補生 3 名から 5 名が 1 チームとなって、地域に配属され、実際の計画の一部を当該地域の公衆衛生監督医の指導のもとに作成する。ちなみに、筆者らのチームはサンテチエンヌ県の小児医療の計画を策定した。1 年間の研修の終わりには 3 日間にわたる試験が行われ、筆記試験、作成した卒業論文を対象とした口頭試問が行われる。上記の試験結果に実習評価点を加え、総得点で 60% 以上が合格の基準となる。(図表 7)

## 2. オランダにおける公衆衛生学教育 (図表 8)

### (ア) 卒前教育 (図表 9)

オランダの公衆衛生学教育においては、わが国のような講義形式のものではなく、臨床各科と共同で学生参加型のワークショップで学習が行われていることが特徴的である。教育の内容もわが国より医療保険制度や臨床に関連したものが多い。卒業論文のテーマとして公衆衛生学に関連した事項を選択した学生については別途個別の指導が行われている。

### (イ) 卒後教育 (図表 10)

卒後教育の特徴としては、単一の医学部で教育を行うのではなく、保健省の支援のもと、ユトレヒト大学、ロッテルダム Erasmus 大学、アムステルダム大学の 3 医学部・公衆衛生学教室が共同でオランダ公衆衛生学校 Netherlands School of Public Health を運営している点が上げられる。教育は 1 年で、その内容はアメリカなどその他の国の修士課程の内容とほとんど同じである。しかしながら、夏季セミナーなどをオランダ本国ではなく、ハンガリーやルーマニアなどの旧東欧諸国で開催し、それらの国々の公衆衛生研究者の研修を行っている点が特徴的である。

# フランス・オランダの衛生学公衆衛生学教育の現状

産業医科大学・医学部  
公衆衛生学教室  
松田晋哉

図表1 フランス

- ・ 卒前教育
  - 第2、第3学年時：公衆衛生(系統講義のみ)、産業医学(法医学の一部門：1~2コマ)
  - 臨床系における公衆衛生関連教育：老年医学、小児科(小児保健)、産婦人科(母子保健)
- ・ 卒後教育
  - 公衆衛生専門医
  - 国立公衆衛生学校ENSP
  - School of Public Health (ナンシー大学)

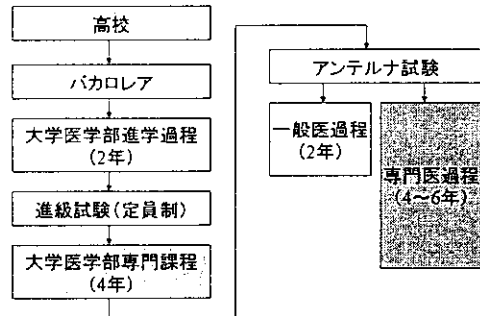
図表2 フランスの卒前公衆衛生教育

第2または第3学年で履修。系統講義のみ。ただし、卒業論文のテーマとして公衆衛生的な内容を選択するものについては別途指導がある。また、3<sup>rd</sup> cycleでは、他学の公衆衛生の選択科目を履修することも可能

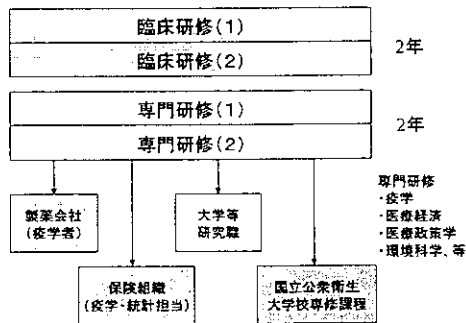
主な学習内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健医療組織                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 医療保険制度</li> <li>- 社会福祉制度</li> </ul> </li> <li>・ 疫学</li> <li>・ 公衆衛生活動                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 疫学医療計画</li> <li>- 予防</li> <li>- 健康教育</li> <li>- 保健医療分野における協働</li> <li>- 評価方法</li> </ul> </li> <li>・ 環境科学(特に環境汚染問題)</li> <li>・ 薬物中毒</li> <li>・ 事故                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 交通事故</li> <li>- 屋内における事故</li> <li>- 労働災害</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予防医学                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 感染症</li> <li>- がん</li> <li>- 循環器疾患</li> <li>- 糖尿病</li> <li>- 精神保健</li> </ul> </li> <li>・ 社会医療活動                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 母子保健</li> <li>- 高齢者</li> <li>- 障害者</li> <li>- 貧困と公衆衛生</li> </ul> </li> <li>・ 栄養と公衆衛生                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 世界の食糧問題</li> <li>- 食品衛生</li> </ul> </li> <li>・ 発展途上国における公衆衛生</li> </ul>
--	---

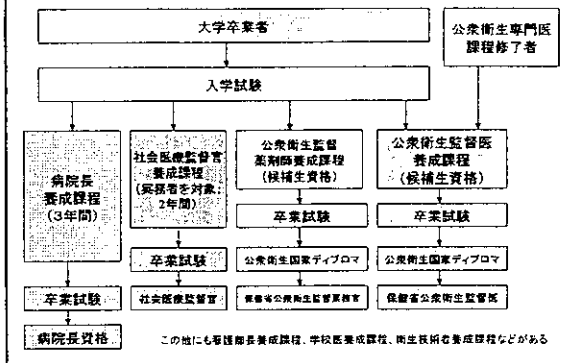
図表3 フランスの卒後研修課程



図表4 フランスの公衆衛生専門医課程



図表5 国立公衆衛生大学校ENSP



図表6 国立公衆衛生大学校ENSPにおける教育

オリエンテーション	社会衛生局への配属								
	疫学	疫学(1)	病棟法	病棟分析	病院全計	総コース学生との共同学習	監査講	監査実習	
論文の作成(指導教官1名選択しテーマを決定)									
大学校での講義									
コミュニケーション論及び実習	医療社会学	高齢者	障害者	精神保健	母子保健	疫学(2)	人口統計	保健医療計画・評価	保健医療計画実習
論文の作成(法)									
社会衛生局への配属	大学校での講義		筆記試験Ⅰ						
	職業制度	社会保険	筆記試験Ⅱ						
論文の作成		海外実習調査		筆記試験Ⅲ					
				論文審査					

図表7 国立公衆衛生大学校における教育の特徴

- ・ 実務者教育：入学者は保健省の幹部候補生となり、給与をもらう
- ・ 卒業後は特定の業務につくための資格が与えられる。
  - 公衆衛生監督医、公衆衛生監督業務官、病院長資格など
- ・ 教育は大学校での講義と現場での実務トレーニングから構成される
  - 指導医である公衆衛生監督医のもとで見習として勤務
  - 講義内容は行政に関連することが中心：特に監査に必要な知識と技術を重視。また、関連法律の解釈に関する授業が多い。
  - 実習が多い
- ・ 評価：この結果により勤務先も決まる
  - 講義：筆記試験(2日間の論述試験)
  - 実習：レポート及び発表会による評価(外部の評価官)
  - 現場の実務トレーニング：指導医による評価
  - 論文：内容と発表会のプレゼンテーション・質疑応答
- ・ 感想：体系的な教育はなく、実務が中心で多くの書類を大量に読まされる。あくまで、いわゆる「医系技官」を育てるための教育

図表8 オランダの公衆衛生教育

- ・ 卒前教育
  - 第2、第3学年時(従来)：公衆衛生(系統講義およびワークショップ)臨床系における公衆衛生関連教育：老年医学、小児科(小児保健)、産婦人科(母子保健)
  - 授業評価については、大学相互間で行っている。また、学生による評価も一般化している。
- ・ 卒後教育
  - Netherlands School of Public Health (公衆衛生修士課程)
    - ・ 1年課程(前期・後期：論文作成とその審査)
    - ・ ユトレヒト大学、ロッテルダムErasmus大学、アムステルダム大学の3医学部・公衆衛生学教室における共同事業(保健省の支援)

図表9 オランダにおける卒前公衆衛生教育改革

(ユトレヒト大学医学部の例)

従来のカリキュラム	新しいカリキュラム		
保健医療福祉関連法履修	4コマ	医学オリエンテーション(1年生)	6週間
選択授業	6コマ	[公衆衛生学教室はこのco-ordinator]	
医師とマネジメント		専門業との協働(2+2体制)	
医師と人権		多分野の講師による授業	2時間2回
救急医療における法的側面		講師との質疑応答形式の講義	1時間6回
救急医療における質		公衆衛生現場における現場実習	
社会医学におけるワークショップ(必修)	2週間	保健医療福祉関連法履修(3年生：選択)	4週間
社会医学におけるワークショップ(オプション)	8週間	医師とマネジメント(3年生：選択)	4週間
15~20人の学生が対象		疫学と社会(3年生)	
		社会医学におけるワークショップ(3年生)	
		その他、4、5、6年生を対象としたオプションの公衆衛生関連教育実習	

オランダの場合、学生参加型の小グループ学習が一般的となっている。また、卒前公衆衛生学教育の内容も、わが国と比較すると臨床的内容や社会保障制度に関するものが中心となっている。

図表10 Netherlands School of Public Healthにおける教育内容

- ・ 4つの主要領域
  - 公衆衛生学における研究方法論
  - 公衆衛生行政とマネジメント論
  - 公衆衛生学的介入の方法論
  - 公衆衛生に関する個別のトピック
- ・ 前期は上記4領域の一般的な教育
- ・ 後期は上記4領域から、モジュールを選択して、アドバンスコースを選択

## 4. 英国における社会医学教育

京都府立医科大学 附属脳・血管系老化研究センター 社会医学・人文科学部門 教授  
渡邊 能行

はじめに

秋田大学公衆衛生の本橋教授より、「英国における社会医学教育」について、特に卒前教育についてその現状を調べるようにという課題をいただいた。ロンドン大学については他に報告者があるので、イングランドの名門大学であるオックスフォード大学とスコットランドのトップ大学であるエジンバラ大学を調べることにした。まず、2002年7月時点のインターネット上のホームページより情報を収集した。2002年10月より新学期が開始されるので、それぞれの医学部における卒前教育の概要を収集することができた。この原稿を記載している2003年1月時点ではそれぞれのホームページの記載内容が変更されているので、webのアドレスはあえて示さない。資料として収載してある「Public Health Medicine in Oxford University Medical School, CURRICULUM FOR THE FIFTH YEAR, 2002-2003」は、2002年7月時点のオックスフォード大学のホームページからの情報である。ホームページの情報だけでは、隔靴搔痒の感があるので、京都府立医科大学第一解剖学教室の河田光博教授の共同研究者であるオックスフォード大学解剖学 John Morris 教授とエジンバラ大学生理学 John Russell 教授とを紹介いただいた上で、両教授よりそれぞれの大学における社会医学の卒前教育を行っている教官を紹介いただいた。オックスフォード大学では Institute of Health Sciences の Professor である Dr. Raymond Fitzpatrick を、エジンバラ大学では senior lecturer である Dr. Harry Campbell をそれぞれ紹介いただき、彼らと主に2002年8月にeメールで情報交換を行った。なお、お世話になった諸先生方に紙面をお借りして深甚なる謝意を表すものである。資料として収載してある「Undergraduate Medical Curriculum in Edinburgh University Medical School, Vertical Theme on Public Health」は、Dr. Harry Campbell より直接いただいた資料である。このように、2002年9月初めにはある程度の状況は把握できたが、もう少し突っ込んだ情報が必要と考え、2002年9月30日(月)にエジンバラ大学を、10月2日(水)にオックスフォード大学をそれぞれ約半日実際に訪問し、更なる情報交換を行った。

以上をもとにして、パワーポイントによってスライドを作成し、講演資料として添付してある。以下にスライドを補足した概説を加える。

英国における医学教育全般について

OECDにおける統計によれば、人口1,000人当たりの医師数は日本1.9、英国1.8であり、ともに最下位グループに位置している。英国の教育制度は、義務教育が終了後、高等教育準備期間が数年あり、その後大学等の高等教育を受けることになっている。米国のように他大学を終了後ではなく、日本と同様、直接医学教育を18歳から受けるストレート方式である。なお、イングランドとスコットランドでは大学進学資格審査名が違ったりして制度が若干異なるが、ほぼ同一である。医学部(medical school と称されている)入学前の高等教育準備期間にわが国の医学部における一般教養に相当する教育を受けるので、医学部入学直後より医学教育が始まる。

英国内には2002年7月時点のインターネット上では、ロンドン大学における5つを含めて、26の医学部が存在している。ロンドン大学には、かつては病院ごとに独立して医学教育が行われてきたが、統合され5つになったようである。なお、informal な情報として、医師数を増加させるために新設の医学部が現在2-3校計画されているということである。

英国における医学教育は、GMC (general medical council) がコントロールしており、1993年には「明日の医師 (tomorrow's doctors)」という提言を行っており、知識や技術の修得だけでなく、患者や同僚から学び、データを評価する能力を含む学習プロセスの重要性が強調されている。

エジンバラ大学

エジンバラ大学の医学教育の基本コースは5年であり、1学年は約200人の学生からなる。社会医学担当は、Department of Public Health Sciences であり、スタッフは約100人からなるが、実際に指導する教官は15名である。教育方法は、講義、小グループ指導と課題研究等による。5年間を通して社会医学教育に関与している。なお、2学年と3学年の間に選択コースがあり、Honours BSc (上級理学士) の資格が獲得できるようになっており、社会医学関係では BSc in Epidemiology

のコースが用意されている。

エジンバラ大学においては、上記 tomorrow's doctors の提言を受けた教育システムの改変を5年前から行っており、2002年10月からの新年度でちょうど5年目に入る。すなわち、5年間の教育期間において、単純に「・学」単位で教育は行わず、モジュールという教育単位を設け、各学年に限定された教育を横糸として、学年を超えて教育がなされる縦断テーマ (vertical themes) を縦糸とした教育体系をとっている。社会医学教育は、「公衆衛生学 (と疫学)」という縦断テーマとして、5年間を通して教育がなされている。また、「臨床技術、個人的・専門的開発」という縦断テーマの中でも、医療情報学等の関連分野の教育が含まれている。

社会医学として教育する範囲は、疫学 (と人口学)、統計学、健康と疾病に関連する社会学と心理学、ヘルスプロモーション、医療経済学、環境医学、医療情報学、医療倫理学である。

教育履修の評価は、1学年では「健康と社会」および「根拠に基づく医療 (EBM)」、2学年では「疫学と統計学の導入」、3学年から5学年ではポートフォリオ (portfolio) 評価とオスキー (OSCE) 試験が行われている。ポートフォリオ評価とは、学んだ臨床症例に対する社会医学的側面からのまとめをレポートとして学生が提出し、それを評価するものである。なお、公衆衛生カリキュラムの peer review も行われている。卒前教育改革5年目であるので、全体を通じた評価は新カリキュラムでの最初の卒業生が出る2003年夏以降とのことであった。

#### オックスフォード大学

オックスフォード大学の医学教育の基本コースは6年であり、1学年は約150人の学生からなる。社会医学担当は、Institute of Health Sciences の Division of Public Health and Primary Care の Public Health 担当の13名である。教育方法は、講義、双方向性セミナー、小グループ指導等による。社会医学教育は、主に5学年に行っている。卒業生の進路としては研究者となる者が多いのが特徴である。

オックスフォード大学においては、1学年から3学年に臨床前期教育を、4学年から6学年に臨床教育を行っている。

社会医学として教育する範囲は、3学年における医療社会学と医療統計学、4学年における根拠に基づく医療 (EBM)、5学年における公衆衛生学 (7日間) であり、量的には非常に小さい位置付けとなっている。オックスフォード大学が英国でも研究レベルの高い大学であり、研究者志向の学生が多いこともあって、社会医学の位置付けが低いようであった。

オックスフォード大学には、喫煙とがんのコホート研究で有名な Professor Sir Richard Doll のグループがあり、200人ほどの研究者グループを擁しているようであるが、学部教育には全く関与していないとのことであった。実は、Professor Raymond Fitzpatrick のポストもオックスフォード大学直属のポストではなく NHS のポストとのことであった。tomorrow's doctors の提言を受けた教育システムの改変も実施されておらず、オックスフォード大学における社会医学教育が minor な立場にあることを Professor Raymond Fitzpatrick も率直に吐露されていた。教育スタッフも多くは NHS 関連のポストの人材を登用しており、regional health authority の director のポストも以前は医師であったが、最近では医師以外の職種を充てるのが制度的に可能となり、人的資源でも厳しい状況になってきているとのことであった。

#### おわりに

英国を代表する大学であるエジンバラ大学とオックスフォード大学における医学教育についてその概要を報告した。各大学を訪問し教育担当者とは直接意見交換を行うことによって、インターネット上のホームページからだけでは得られない状況を知ることができた。改革に意欲的なエジンバラ大学と厳しい現状にあるオックスフォード大学のいずれもから、貴重な情報が得られた。英国の医療が NHS (national health service) という国営医療が中心であり、わが国の皆保険制度との類似性を含めて、医学教育・医療を取り巻く背景に共通点が多い。したがって、わが国における医学の卒前教育を考える上で英国の現状は大いに参考になると思われる。今後、実地訪問する場合は学休期間ではなく、学期中に行き、実際の教育の場面を見学することも有用と思われた。

英国におけるこの業界の名称が、Public Health → Community Health → Social Medicine → Public Health のように、最近一巡して回帰していると Dr. Harry Campbell から聞くことができた。公衆衛生の重要性が再評価されている兆しのようなのである。我々も努力しなければならぬと共感を覚えた次第である。

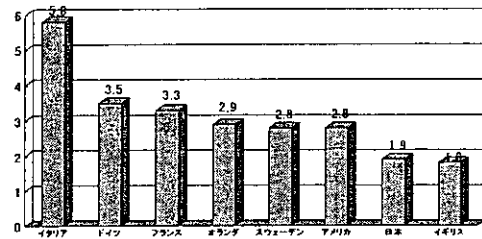
## 英国における社会医学教育

京都府立医科大学 脳・血管系老化研究センター  
社会医学・人文科学部門 渡邊能行

1

## 医師数の国際比較(1998年)

/人口1,000 対



2

## 英国の教育制度

- ・ 5歳～16歳まで 義務教育
- ・ その後、進学資格取得のための高等教育準備期間
- ・ 18歳～ 大学等の高等教育

3

## Edinburgh University Medical School

- ・ 基本コースは5年
- ・ 1学年約200人
- ・ 社会医学担当は、Department of Public Health Sciences。スタッフとしては約100人を数えるが、実際に指導する教員は15名。
- ・ 教育方法は、講義、小グループ指導と課題研究による。
- ・ 社会医学は5年間を通して教育する。

4

## 明日の医師(Tomorrow's Doctors)

- ・ 1993年に出されたGMCによる医学生教育の勧告
- ・ 知識修得から患者や同僚との相互作用による技術修得だけでなくデータを評価する能力を含む学習プロセスの重要性を強調した。
  - GMC (General Medical Council)
    - ・ 登録医により選挙で選ばれた医師(54人)
    - ・ 枢密院によって指名されたメンバー(25人)
    - ・ 医療機関より任命された医師(25人)

5

## Edinburgh University Medical School “明日の医師”からの主要な勧告

- ・ システムに基づき、特別な教育モジュールの用意されたコアと選択モデル
- ・ 基礎医学と臨床医学といった分別の排除を伴った統合の強調、及び垂直(学年をまたがること)と水平(特定の学年に限定すること)
- ・ 細切れになった内容の減少
- ・ 自己学習の強調の増加のような近代的学習方法の採用
- ・ 正式に教えられている臨床技術コアと厳格な評価:コミュニケーションの強調
- ・ 教え込まれた適切な態度
- ・ 公衆衛生と地域社会において学ぶことの更なる強調
- ・ カリキュラムをマッチさせる評価システムの採用
- ・ 更に効果的な指導構造

6

Edinburgh University Medical School  
モジュール(教育単位)

- ・ 1年生: 分子から社会へ
- ・ 2年生: 疾病の生物学
- ・ 上級理学士(The BSc Honours)獲得のための1年(選択)
- ・ 3・4年生: ケアの過程
- ・ 5年生: 臨床医療の準備
- ・ 縦断テーマ(Vertical Themes):  
臨床技術とコミュニケーション、個人的・専門的開発、  
公衆衛生、薬理学と治療学、医療の心理学的側面、  
その他の選択

7

Edinburgh University Medical School

1年生: 分子から社会へ

“分子医科学” & “健康と社会”

- 医療業務の科学的、社会科学的、及び行動学原理の導入
- 患者と家族への接触
- 課題立脚型学習方法を伴う症例立脚型学習チュートリアル

8

Edinburgh University Medical School

2年生: 疾病の生物学

- 免疫病理学、感染症、炎症、腫瘍、遺伝学、血栓症、内分泌学、神経科学
- “医療業務入門”: 臨床医学的方法の基礎(問診と理学的所見の取り方)

9

Edinburgh University Medical School

上級理学士獲得のための1年(選択)

- 約 40% の学生がこの有利な立場を選択
- 12 の専門分野: 解剖科学、生化学、遺伝学、免疫学、医動物・微生物学、分子生物学、神経科学、病理学、薬理学、生理学、心理学、ウイルス学
- 専門分野 への入学の選択は競合的であり、複数を選択できない

10

Edinburgh University Medical School

3・4年生: ケアの過程

- 新血管系疾患、消化器疾患、呼吸器疾患、移動機能疾患
- 縦断テーマ(Vertical themes: 臨床技術、個人的・専門的開発、臨床薬理学、治療学、医療の心理学的側面、公衆衛生)が重要な部分を占める。

11

Edinburgh University Medical School

5年生: 臨床医療の準備

- 一次、二次、三次ケアの経験をもつこと
- 小児医療・保健、老人病学、一般診療、外科、内科を含む
- 縦断テーマ(Vertical themes)の継続

12



## Edinburgh University Medical School

### 縦断テーマ (Vertical Themes) :

#### 臨床技術、個人的・専門的開発

- 救急と蘇生、コミュニケーション技術、相談技術、コンピューター技術と医療情報学、根拠に基づく学習と医療業務、医療倫理・法と専門家としての責任、個人の開発

13

## Edinburgh University Medical School

### 縦断テーマ (Vertical Themes) :

#### 公衆衛生学と疫学

- 公衆衛生は、組織化された社会の努力を通して疾病を予防し、寿命を延長させ、健康を増進する科学であり、また技術である。
- 上記のことが、公衆衛生学と疫学のテーマのコースを通じて一貫として反映されている。

14

## Edinburgh University Medical School

### 公衆衛生学垂直テーマの目標

医学生は以下の能力を十分に持たなければならない。

1. 健康と疾病の概念と決定因子を討議できること。
2. 健康増進 (Health Promotion) と疾病予防の原理と実際について討議できること。
3. 健康と疾病についての一般住民の見解を知る得ること。
4. ヘルスケアの評価とヘルスニーズの評価の原理と実際について討議できること。
5. ヘルスケアシステムとしてのNHS (ナショナルヘルスサービス) について説明できること。
6. 公衆衛生の達成、可能性及び倫理について討議できること。
7. 公衆衛生医学とその健康政策及び臨床医学への応用について説明と討議ができること。

15

## Edinburgh University Medical School

### 公衆衛生の根底にある学問領域 (公衆衛生縦断テーマが医学生に導入しようとしているもの) :

- 疫学 (と人口学)
- 統計学
- 健康と疾病に関連する社会学と心理学
- ヘルスプロモーション (Health promotion)
- 医療経済学
- 環境医学
- 医療情報学
- 医療倫理学

16

## Edinburgh University Medical School

### 公衆衛生縦断テーマ (Vertical Theme) の構造:

- 1年生: 健康と社会、統合化した臨床トピック、根拠に基づく医療 (EBM)
- 2年生: 疫学と統計学の導入、感染症管理
- 2年生と3年生の間: 疫学科学学士
- 3年生: 臨床業務のための公衆衛生、批判的吟味技術に基づくコンピューター支援学習 (CAL) パッケージ
- 4年生: 臨床との連結部におけるモジュール教育とのリンク
- 5年生: 公衆衛生業務、特別研究モジュール (SSM)

17

## Edinburgh University Medical School

### 公衆衛生縦断テーマ (Vertical Theme) の評価:

- 1年生: 健康と社会、根拠に基づく医療 (EBM)
  - 2年生: 疫学と統計学の導入
  - 3~5年生: ポートフォリオ (Portfolio) 評価、オスカー (OSCE) 試験
- 公衆衛生教育カリキュラムのPeer review

18

## Oxford University Medical School

- 基本コースは6年
- 1学年約150人
- 社会医学担当は、Institute of Health science, Division of Public Health and Primary CareのうちのPublic Health担当の13名。
- 教育方法は、双方向セミナー、小グループ指導等。
- 主にYear 5に社会医学教育を行っている。
- 学生は研究者志向の者が多い。

19

## Oxford University Medical School

- 1～3年生：臨床前教育(Pre-clinical study)
  - 前半の基礎医学科目
  - 後半の専門分野→BA degree
- 4～6年生：臨床教育(Clinical study)
  - 2年半；コア臨床カリキュラム
  - 最後の半年；興味ある科目の選択とpre-registration house officer (PRHO)としての準備→BA, BCh degree

20

## Oxford University Medical School

- 1～3年生：臨床前教育(Pre-clinical study)
  - 前半の5学期；前半の基礎医学コース
    - 形態学、生殖と発達、生理学と薬理学、生化学（1年生の最後に試験）
    - 神経、行動及び神経分泌システム、病理学と医療遺伝学（5学期末に試験）

1年 = 3学期

21

## Oxford University Medical School

- 1～3年生：臨床前教育(Pre-clinical study) (続き)
  - 後半の4学期；生理科学の最終専門分野（コース）
  - 学生は下記選択分野から4つの異なった科目を勉強しなければならない；
    - 生化学：疾病の分子メカニズム、神経科学 I（細胞）、神経科学 II（システム）、循環、呼吸、上皮の生理学、内分泌学、細胞生物学、免疫学、薬理学、発達生物学、細胞生理学

22

## Oxford University Medical School

- 4年生：臨床教育(Clinical study)
  - 基礎コース（5週間）
  - 一般診療（2週間の住み込み配置）
  - 検査医学（8週間）
  - 麻酔を含む外科（8週間）
  - 地域総合病院（DGH）への配属での内科・外科（4週間）
  - 特別学習モジュール（4週間）
  - 筋道コース：根拠に基づく医療（EBM）と情報技術、医療倫理学と法、コミュニケーション技術と人間の臨床薬理学、放射線医学、腫瘍学

23

## Oxford University Medical School

- 5年生：臨床教育(Clinical study)
  - 神経病学と脳神経外科学、耳鼻咽喉科学、眼科学（8週間）
  - 精神医学（8週間）
  - 臨床老年病学、緩和療法、プライマリケアと公衆衛生（8週間）
  - 産婦人科学（生殖泌尿器科学を含む）（8週間）
  - 事故と救急医学 / 整形外科 / 筋肉・骨格医療（8週間）
  - 小児科学（8週間）

24

## Oxford University Medical School

- 6年生：臨床教育 (Clinical study)
  - 内科学 (5週間)
  - 外科学 (5週間)
  - 皮膚科学 (2週間)
  - pre-registration house officerと行動をともにする配属を含む臨床選択科目と特別学習モジュール (12週間)
  - 地域総合病院 (DGH) (6週間)
  - 医師としての業務の準備 (Preparing for Practice as a Doctor; PPD) (2週間)
  - 選択科目 (10週間)
  - 上級生命維持コース (1/2 日)
  - 改訂コース (病棟での教育と学習の3週間)

25

## Oxford University Medical School

### 担当公衆衛生分野

- 3年生：医療社会学  
医学統計学
- 4年生：根拠に基づく医療 (EBM)
- 5年生：公衆衛生 (7日間)

26

## Oxford University Medical School

### 公衆衛生；学習目標 (1)

学生は下記のことができるようになるべきである。

1. 健康の決定因子を討議することができる。
2. 健康と疾病について研究する臨床試験、症例-対照研究、コホート研究を含む疫学手法について討議することができる。
3. 倫理的問題を含む臨床研究デザインについて討議することができる。
4. 率、割合、罹患、有病、リスク、オッズ比、治療必要症例数を用いて人口集団における疾病の量を表現することができる。
5. バイアス、交絡因子、偶発の役割、p値及び信頼区間についての洞察をもってデータを評価することができる。
6. 疫学データを収集することにあたっての医師の役割について討議することができる。

27

## Oxford University Medical School

### 公衆衛生；学習目標 (2)

7. サーベイランスと感染症の管理、環境危機、スクリーニング、ヘルスプロモーションを含む健康の維持と改善のアプローチについて説明することができる。
8. 患者に対するケアの多機関の経路について説明することができる。
9. effectivenessとefficiency、費用と結果の測定、費用・効果の比較を含むヘルスサービスと介入の経済学的評価について説明することができる。
10. 公衆衛生において利用される情報について説明することができる。
11. 健康政策の策定と実行方法について討議することができる。

28

## Oxford University Medical School

### 公衆衛生；教育方法

1. 双方向性セミナー
2. 小グループでの勉強
3. ケアの経路と社会的・経済的影響、残存機能損失のような患者と広範な家族に対する「健康の出来事」の影響の評価するための構造化された患者面接
4. 事実に基づく情報を掲載した配布資料
5. ビデオ発表
6. 学生による発表に基づく優先順位の論争
7. 研究の解釈を目的とした抄読と準備

29

## Oxford University Medical School

### 公衆衛生；評価

- コースの途中
  1. コースのチューターから提供された意見
- コース終了時
  1. 前述の学習目標をカバーした小回答論文の記述
  2. 学生とコースのチューターが完成した出席を含めた専門的行動についてのコメントを特に求めたコースのレポート

30

## Oxford University Medical School

### 公衆衛生；教授細目

#### ・知識

1. 疫学の概念と方法
2. ヘルスプロモーションと疾病予防
3. ヘルスケアの組織化、到達及び評価

31

## Oxford University Medical School

### 公衆衛生；教授細目

#### ・技術

1. 感度、特異度、適中率、尤度比、及び事前・事後確率の問題を含む診断テストからの臨床情報の解釈
2. 研究論文の批判的吟味
3. 死亡診断書
4. 疾病の突発的流行に対する調査のデザイン
5. 人口集団のニーズを評価するための異なった情報源の利用
6. 優先順位決定についての論争における資金援助サービスを求めている症例の呈示

32

## Oxford University Medical School

### 公衆衛生；教授細目

#### ・態度

1. 効果的なチームワークとコミュニケーションへの貢献
2. もし責任が良好な出席と建設的意見の提供を妨げるのであれば、規則的出席や論争、事前連絡を含む活動における建設的役割を演ずることを通した専門的行動の表現。

33

## 5. The Guy's, King's and St Thomas' School of Medicine King's College London, University of London における社会医学教育

京都府立医科大学 附属脳・血管系老化研究センター 社会医学・人文科学部門 助教授  
小笹 晃太郎

### 大学の概要

King's College は 1829 年にジョージ 4 世らによって創立され、医学校および病院を開設した。一方、St Thomas 病院は 12 世紀、Guy 病院は 1721 年に開設され、連携して医学校を共有してきたが、医学校は 1825 年に分裂の後、1982 年に United Medical and Dental Schools of Guy's and St Thomas' Hospitals (UMDS) として統合された。1998 年に King's College と UMDS が統合されて、頭記の GKT School of Medicine のほか、GKT School of Dentistry および GKT School of Biomedical Sciences に改組された。また King' College の関連分野の学部は School of Health & Life Sciences として再編成された。医学生数は 1 学年 360 人で英国最大規模である。病院の運営は、Guy 病院および St Thomas 病院とでひとつ、King's College 病院がひとつ、それぞれ別の NHS 財団を形成して行っている。

大学の得意分野は、自己免疫・免疫調節、糖尿病および代謝、神経科学および発達神経生物学、緩和医療およびヘルスケア、心理医学、女性・小児の保健としている。

なお、St Thomas 病院の医学校は、脚気の航海実験による介入疫学研究で著名な高木兼寛先生が 1875～80 年に留学されている。

### 組織の概要

GKT School of Medicine を構成する Division とその下位の Department を示す。

Division (分野)	Department (教室)
臨床検査医学	免疫生物学、免疫学、組織病理学、血液医学、臨床化学、実験病理学、感染、分子医学
臨床神経科学	神経免疫学、神経病学、臨床神経生理学、神経外科学、全 Departments からなる研究グループ：神経炎症研究グループ
皮膚科学	炎症および治療学、感染症および免疫、細胞および分子病理学、光生物学および環境皮膚科学、組織病理学
医学および分子遺伝学	(単独)
内科学	心臓病学、臨床科学、高齢者のヘルスケア、肝臓病学、HIV/GU 医療、糖尿病・内分泌および内科学、腎臓内科学、呼吸器内科学およびアレルギー、リウマチ学、緩和ケアおよび政策、腫瘍学
プライマリケアおよび公衆保健科学	公衆保健科学 (Public Health Sciences)、一般医療およびプライマリケア (General Medicine & Primary Care)、医学および歯学教育、産業医学
心理医学	(心理学研究所との連携)
放射線科学および医療工学	放射線科学、医療工学および物理学
外科学および麻酔学	一般外科学、麻酔学、整形外科学、耳鼻咽喉科学
女性および小児の保健	産科学および婦人科学、小児の保健

### 公衆保健科学教室 (Department of Public Health Sciences) の概要

GKT School of Medicine, Dentistry, & Biomedical Sciences を構成し、約 60 名のスタッ

フがあり、1)公衆保健医学 (Public Health Medicine) を専攻する、医師および他の生物科学者、2)医療社会学者および他の社会科学専攻者 (人類学、心理学、政策学、保健経済学)、3)統計学者およびコンピュータ科学者、4)管理、計算作業、秘書などの支援要員からなる。学部教育では、公衆保健医学、統計学、および社会学、保健およびヘルスケアの一部分の教育責任を分担する。研究テーマは、ぜんそく、脳卒中、カリブ海地域の保健、ヘルスケアの評価、患者および医療従事者のケアに関する展望、ヘルスサーベイランス、環境と健康である。

GKT School of Medicine の学部教育では第1・2学年で Practice of Medicine (臨床疫学、統計学、医療への応用としての社会学) を担当する。第3・4学年ではすべての学生が Special Study Module プログラムとして教室内で小さなプロジェクトを行う。第5学年では、短期コースで感染症のサーベイランスと管理、NHS (National Health Service) および National Service Framework の作業管理に関するさまざまな課題を取り扱う。

また、公衆保健学領域の大学院生および専門修練医 (registrar) の教育にもたずさわっている。

公衆保健科学教室が、医学生が学ぶべきコア・スキルとして掲げている項目を下に示す。

公衆保健科学は、公衆衛生、医療社会学、疫学、医用統計学および保健経済学の専門性で構成される。学生は、次のことを修得しなければならない。

1. 集団の死亡や健康状態を記述するために一般的に用いられる疫学用語を使用および説明すること
2. 自分たちの地域および国家の死亡や健康状態を記述するために日常的に利用可能な資源から情報を引き出して提示すること
3. 臨床的および疫学的仮説を検証するために必要である適切な研究デザインを示し、そのデザインの限界を示すこと
4. 無作為割付試験において疾病および障害を評価するための適切な結果測定方法を示すこと
5. 個人または集団に対して同定されたリスクの関連性を評価するために、一般的に用いられるリスクの測定方法を説明すること
6. 曝露と結果の間の関連性が因果関係か否かを決定するために、その関連性を評価すること
7. 曝露と結果の間の関連性が偏りや交絡によって説明される可能性があるか否かを決定するために、その関連性を評価すること
8. 刊行された論文を批判的に評価し、臨床医療、ヘルスケアや公衆衛生活動の方法を変えるべきか決定すること
9. 検診プログラムが容認されている基準をみたすか否かを決定するためにそのプログラムを評価すること
10. 自分たちの患者のケアの過程および結果にとって、妥当性および信頼性の高い情報を収集すること
11. 適切なコンピュータ・プログラムを用いて、データに対して簡単な記述統計を行うこと
12. 医学文献で一般的に用いられている集約的統計並びに関連する信頼区間および p 値を説明すること
13. 患者の持っている病気または障害が、有害な環境因子 (職業的を含む) への曝露を低減すること、または患者の社会環境を変化させることによって緩和することができるかもしれないものであるか否かを評価すること
14. 感染症患者の同定に引き続いて公衆衛生の保全を確保するために適切な行動をとること

15. 有害な環境要因への曝露を低減するため、または保健行動を改善するために取るべき地域的および国家的介入方法を示すこと
16. 新しい薬物、臨床サービス、または公衆衛生の介入の実行を支援するための、臨床的、費用-効果、効率、費用および機会費用の問題を合体させる論理的な議論をまとめること
17. 患者に対する特定の疾病の心理社会的な影響を評価し、患者のケアを改善するためにこれを適切にもちいること
18. 患者の文化的信念と実践に関する彼らの知識を役立たせながら、患者と効果的に理解し合うこと
19. サービスのための彼らの作業負荷や人々のニーズに対する、彼らの地域で広く存在する社会的条件の影響を評価すること
20. てんかん、精神病、または身体障害の患者に対する'felt stigma'(烙印)の影響を評価し、これを患者のマネジメントに考慮すること
21. 受診の遅れ、コンプライアンスの不良、保健サービスの過剰利用などを引き起こす社会的要因を同定して適切に対応すること

## 医学教育の概要

GKT School of Medicine での教育の特徴として基礎医学と臨床教育の完全な統合を掲げている。すなわち、最初の4年間に、これらの2つの領域を統合した学習コース（コアカリキュラムおよびそれを補完する Special Study Module (SSM) : 医学的、科学的、文科系および語学の科目）を学ぶ。学生は、コースの第一週から患者および臨床医に紹介される。第5学年は職業指導志向的である。なお、第6学年は Pre-registration House Officer として研修できるように設定されている。学位は MBBS (Bachelor of Medicine and Bachelor of Surgery)。第3学年および第4学年に他学部の学位を取るためのコースを挿入することができる (Intercalated BSc)。また、School of Biomedical Science からの編入学も可能である。各学年での教育プログラムの概要を下記に示す。

<p>&lt; 1 - 2 学年 &gt;</p> <p>細胞と分子 — 細胞および分子科学、疾病の科学的基礎 (臨床例によって説明される)</p> <p>医療活動 (Practice of Medicine) — 患者に密接な仕事 : 一般医療への付添、社会学、倫理学、心理学、公衆保健医学および疫学への幅広い探求を含む</p> <p>専門的技術 — 研究、コミュニケーション、IT、臨床的・倫理的技術</p> <p>体のしくみ — 心血管系・呼吸器系、消化器系、腎・内分泌系、神経科学、筋・骨格系、頭頸部、内分泌学および生殖</p> <p>SSM — 医学、科学、および非医学系 (文科系、語学) より選択</p>
<p>&lt; 3 - 4 学年 &gt;</p> <p>一般医療 (General medicine)、外科学、病理学、臨床薬理学および治療学、精神医学、整形外科学、神経病学、救急医学および外傷、産科および婦人科、小児科、高齢者のヘルスケアおよび緩和医療 (臨床ローテーションは、討論会やケアおよび問題に基づいた学習によって補完される、多くの専門分野にわたる医療チームに基づく)</p> <p>SSM — 医学、科学、および非医学系 (文科系、語学) より選択</p>
<p>&lt; 5 学年 &gt;</p> <p>職業指導志向的で、技術の訓練に焦点をおいた、患者および診断推論の実践的マネジメント。学生はプライマリケアおよび病院におけるケアチームの一員となり、定められた役割および責任を持つ。</p> <p>SSM — 臨床的および科学的選択課題</p>

学生のグループおよび時間割（1－2 学年）

30 グループ（各 12 人）。講義の時には全学生が集まる。チュートリアルは 1 グループずつ行う。その他の授業では 5 または 10 グループが集まる。各個人の時間割は各セッションの始めにグループ番号で周知される。

Practice of Medicine の地域活動ではこのグループは用いない。一般医療教室が時間と場所を学生に周知する責任を負う。公衆保健科学教室もチュートリアルには異なった学生の配置を用いる。

### 衛生学公衆衛生学教育の位置づけ

衛生学公衆衛生学を構成する教育要素は、医療活動を支える基礎的要素として、上記 Practice of Medicine (POM) に包含されている。

### 第 1 学年の Practice of Medicine の要旨（MBBS 学位規則）

「地域における医療活動への導入－健康と疾病の概念、社会の中における医療の位置、医療の中でのコミュニケーション、医療相談・診察、地域での医療従事者およびヘルスケア・チームを含む。医療倫理学への導入を含む。」

### 第 2 学年の Practice of Medicine の要旨（MBBS 学位規則）

「健康および疾病を理解するために必要な、社会的、心理学的、および疫学的な理論的基礎の提示。地域および病院が実践経験のための背景状況を提供するであろう。理論および実践経験が密接に結びつくであろう。」

### Practice of Medicine (1&2) の内容

コースの責任者：Department of General Medicine & Primary Care の代理主任（教授）

コースの全般的目標

- ・現代医学の臨床医療のために必要な知識、技術および態度を発達させるためのコアコースを提供すること。これらは、臨床疫学および公衆保健科学、医療社会学および心理学、コミュニケーション技術および医療倫理学および法学、地域および病院医療について教えることを通して提示される。
- ・学生に早い時期に患者やヘルスケアチームと接触する機会を提供すること。それにより、その内情の理解を助け、彼らの医療の仕事との関連を示す。
- ・直接に教えることと共に、反響や討論を通じて理論と実践の統合を始めること。
- ・高学年で続ける臨床実践のための基礎を据えること。

以下に示す科目は、Practice of Medicine 2 のハンドブックに述べられている項目である。ただし、臨床疫学・医用統計学は、第 2 学年全体について述べてある Handbook Year 2 では Practice of Medicine とは独立して記載してある。



【臨床疫学・医用統計学】 コースの企画者：公衆保健科学教室

目標：臨床疫学を臨床医療の基本的科学であると強調し、医療活動を住民全体の健康に関連させるコアコースを提供すること。

目的：

- ・無作為化試験がどのようにして治療の有効性を評価するために用いられるのか説明する。
- ・Evidence based medicine の原則を説明する。
- ・疫学研究がどのようにして疾病の原因を同定するために用いられるのか概説する。
- ・検査がどのようにして疾病を診断し、疾病の患者を拾い出すために用いられるのか説明する。
- ・疾病の経過に影響を与える因子について記述する。
- ・異なった住民集団の構造を記述し、患者がどのようにして住民集団から選ばれるのか説明する。
- ・健康と疾病の異なった測定方法を区別し、地域および国全体の住民集団での病的状態および疾病の主たる原因を記述する。
- ・疾病予防の異なった戦略を概説する。

教育方法：講義（12回）とテュートリアル（14回）

【臨床実践】－地域医療の探査 コースの企画者：一般医療およびプライマリケア教室

【ヘルスケアにおけるコミュニケーション】 コースの企画者：コミュニケーション技術ユニット（ガイ病院の臨床技術センター）

【倫理と法】 コースの企画者：一般医療およびプライマリケア教室、医療法学および倫理学教室（法学部）、医学および歯学教育教室

【緩和ケア】 コースの企画者：緩和ケアおよび政策教室、トリニティ・ホスピス

【心理学】 コースの企画者：心理学ユニット（ガイ病院）、神経科学研究センター（ガイ病院）

【社会学】 コースの企画者：公衆保健科学教室

Practice of Medicine の評価

学年末	Written Paper 1 (2 hours)	30%
	Written Paper 2 (2 hours)	30%
	Objective Structured Clinical Exam	15%
講義中	Essay (Sociology)	5%
	Critical Appraisal (Clin Ep & Med Stat)	5%
	Lab Report	5%
	Role-Play Workshop (General Practice)	2.5%
	Case Presentation (General Practice)	2.5%
	Short Answer Question (Ethics)	5%

参考資料

Department of Public Health Sciences (<http://www-phm.umds.ac.uk>)、King's College (<http://www.kcl.ac.uk>)、GKT Virtual Campus (<http://www.kcl.ac.uk/teares/gktvc>)、私信等より

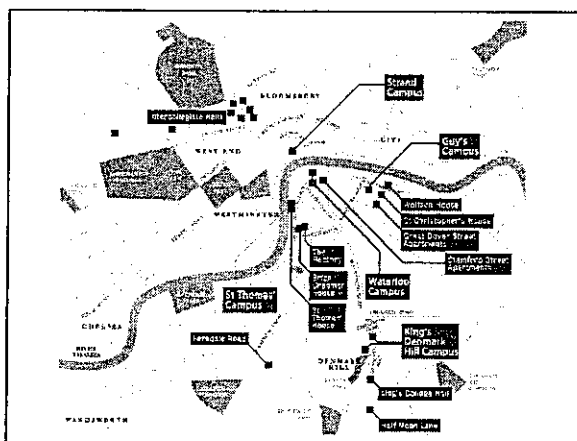
The Guy's, King's and  
St Thomas' School of Medicine  
King's College London,  
University of London



University of London

大学の概要

- King's Collegeは1829年創立(医学校・病院)
- St Thomas病院は12世紀、Guy病院は1721年に開設(医学校→UMDS)
- 1998年にKing's CollegeとUMDSが統合→GKT School of Medicine
- 医学生数は1学年360人



組織の概要

Division(分野)	Department(教室)
プライマリケアおよび公衆保健科学	公衆保健科学 (Public Health Sciences)
	一般医療およびプライマリケア (General Medicine & Primary Care)
	医学および歯学教育
	産業医学

公衆保健科学教室 (Department of Public Health Sciences) の概要

- GKT School of Medicine, Dentistry, & Biomedical Sciencesを構成
- 約60名のスタッフ
  - 1) 公衆保健医学(Public Health Medicine)を専攻する、医師および他の生物科学者
  - 2) 医療社会学者および他の社会科学専攻者(人類学、心理学、政策学、保健経済学)
  - 3) 統計学者およびコンピュータ科学者
  - 4) 管理、計算作業、秘書などの支援要員

公衆保健科学教室 (Department of Public Health Sciences) の概要 (2)

- GKT School of Medicineの学部教育: 公衆保健医学、統計学、および社会学、保健およびヘルスケアの一部
- 第1・2学年: Practice of Medicine(臨床疫学、統計学、医療への応用としての社会学)
- 第3・4学年: Special Study Module
- 第5学年: 短期コースで感染症のサーベイランスと管理、NHS、National Service Frameworkの作業管理に関する課題
- 公衆保健科学教室の教育するコア・スキル(資料)

## 大学教育の概要

- 基礎医学と臨床教育の完全な統合
- 1～4学年：コアカリキュラムおよびそれを補完するSSM(医学的、科学的、文科系および語学の科目)
- 第5学年：職業指導志向的
- 第6学年：Pre-registration House Officer(任意)
- 学位はMBBS(Bachelor of Medicine and Bachelor of Surgery)

## 学生のグループおよび時間割 (1-2学年)

- 30グループ(各12人)
- 講義は全学生
- テュートリアルは1グループずつ
- その他の授業では5または10グループ
- Practice of Medicine の地域活動、公衆保健科学教室のテュートリアルには異なった学生の配置を用いる

## 衛生学公衆衛生学教育の位置づけ

- 衛生学公衆衛生学を構成する教育要素は、医療活動を支える基礎的要素として、Practice of Medicine (POM)に包含されている。

## Practice of Medicine (1&2)の内容

- ✓ 臨床疫学および公衆保健科学、医療社会学および心理学、コミュニケーション技術および医療倫理学および法学、地域および病院医療
- ✓ 学生に早い時期に患者やヘルスケアチームと接触する機会を提供する

## Practice of Medicine (1&2)の内容 臨床疫学・医用統計学

- コースの企画者：公衆保健科学教室
- 目標：臨床疫学を臨床医療の基本的科学であると強調し、医療活動を住民全体の健康に関連させるコアコースを提供すること
- 教育方法：講義(12回)とテュートリアル(14回)

## Practice of Medicine (1&2)の 他の内容

- 臨床実践—地域医療の探査
- ヘルスケアにおけるコミュニケーション
- 倫理と法
- 緩和ケア
- 心理学
- 社会学

## Practice of Medicineの評価

- 学年末
  - 筆記試験1(2時間) 30%
  - 筆記試験2(2時間) 30%
  - 臨床実地試験(OSCE) 15%
- 講義中
  - 小論文(社会学) 5%
  - 批判的評価(臨床疫学・医用統計) 5%
  - 検査報告 5%
  - ロールプレイ(一般医療) 2.5%
  - 症例報告(一般医療) 2.5%
  - 短答問題(倫理学) 5%

## 6. ロンドン大学衛生学・熱帯医学大学院 (LSHTM)

東京大学医学教育国際協力研究センター 講師

水嶋 春朔

### 1. ロンドン大学衛生学・熱帯医学大学院 (London School of Hygiene & Tropical Medicine: LSHTM) の位置付け

- ・ 国立大学院大学 (卒後教育機関) (ロンドン大学は複数の教育機関からなる連合大学)
- ・ 英国には、公衆衛生医学大学院が3校 (ロンドン、エジンバラ、グラスゴー)
- ・ 公衆衛生医の専門教育制度におけるアカデミックスクール

### 2. 学部構成 (2001. November)

- ・ Dean (Prof AP Haines (2001.1-), Prof HC Spencer (1997 -2000.12))
- ・ Teaching Academic Director
- ・ Research Degree Programme Director
- ・ Distance Learning Co-ordinator
- ・ Department

#### (1) Dept of Epidemiology and Population Science

Cancer and Public Health,  
Centre for Population Studies,  
Epidemiology Unit  
Medical Statistics Unit  
Public Health Intervention Research Unit  
Public Health Nutrition Unit

#### (2) Dept of Infectious and Tropical Diseases

Clinical Research Unit – Hospital for Tropical Diseases  
Disease Control and Vector Biology Unit  
Immunology Unit  
Infectious Disease Epidemiology Unit  
Pathogen Molecular Biology and Biochemistry Unit

#### (3) Dept of Public Health and Policy

Environmental Epidemiology Unit  
Health Policy Unit  
Health Promotion Unit  
Health Services Research Unit

- ・ Full Time Staff (2001. June)

- (1) Academic 194 (School funded 92, Part School Funded 16, Other 86)
- (2) Research 174 (School funded 10, Part School Funded 8, Other 154)
- (3) Administrative/Library/Computing 76